

真誠

学校日より
No.7
西東京市立
田無小学校
令和5年
10月31日

知識は体験の子

副校長 長谷川 功

みなさんは、朝起きて今日の天気が気になったとき、どのようにして天気予報を調べますか。私の父は、新聞を開きます。私は、テレビをつけます。小学生の娘は「OK Google、今日の天気は？」とスマートスピーカに話かけます。様々な分野で技術が向上し、社会の様子も刻一刻と変化しています。同じ情報でも、それを得る手段は多様化するとともに容易になっています。

最近、様々なメディアで取り上げられる技術の中に、知りたいと思ったことを文章で入力すると、まるで人と会話しているような文章で回答してくれる「対話型生成AI」があります。文部科学省でも、暫定的なものでありますが、学校での利用についてのガイドラインが示されました。その中には「適切でないと考えられる例」と「活用が考えられる例」が示されています。その一部を抜粋したものが下の表になります。

適切でないと考えられる例

- 情報活用能力が十分でない状態で自由に使わせる。
- 生成AIの生成物をそのまま自分の成果物として使うこと。
- 子供の感性や創造性を発揮させた場面（詩や俳句の作成、音楽の鑑賞など）で使うこと。
- テストで使うこと。

活用が考えられる例

- 英会話の相手とすること。
- 話し合いの中で、自分たちに足りない視点を気付かせること。
- 生成AIの誤回答をもとに、その性質や限界を学ぶこと。
- 生成AIを使った高度なプログラミングを行うこと。

この例示を見ると、子供が子供のうちに身に付けなければならぬ能力が見えてくる気がします。

子供たちは、人々もとの実際に関わり様々な体験することで、心を躍ら

せ、体を動かし、頭を使います。その中で、考える力、創意工夫する力、感じる力を身に付けることができます。また、一度で答えにたどり着くことができず、何度もチャレンジすること、試行錯誤する力やあきらめずにやりぬく力も身に付きま

す。つまり、体験を通して学ぶことができる力が子供たちにとって重要なのではないのでしょうか。実体験があるからこそ、機械が示す情報と照らし合わせ、正しい判断ができるようになるのではないかと思います。田無小学校では「子供たちが教わる学習」ではなく「子供たちが自ら活動し考え学んでいく学習」を目指し、日々授業改善に取り組んでいます。子供たちが学校生活を通して、豊かな体験ができるよう努めていきます。

大人にとっては回り道に感じることも、子供たちにとっては大きな学びの道であることが多くあります。我が家の娘にも、すぐにスマートスピーカーに話かけるのではなく、窓を開けて空を眺めたり、空気を肌で感じたりするように促してみようと思います。

ちなみに、今回の巻頭言を書くにあたり、「西東京市立田無小学校の学校だより十一月号」に載せる巻頭言を書いてください」と対話型生成AIに頼んでみましたが、結果はうまくいきませんでした。やはり、自分で考え行動しなければ、ゴールにはたどり着かないようです。

十一月の主な行事予定

2	1	30	29	28	27	24	23	21	20	17	15	13	9	8	7	6	3	2	1
土	金	木	水	火	月	金	木	火	月	金	水	月	木	水	火	月	金	木	水
学習発表会 保護者鑑賞日	学習発表会 児童鑑賞日	午前授業(1~5) 読書月間終 会場準備(6)	リハーサル(全)	水曜時程・5時間授業	委員会(卒業アルバム写真) モアレ検査(5)	クリーンアップ大作戦(1)	勤労感謝の日	クリーンアップ大作戦(6)	クリーンアップ大作戦(5)	避難訓練	午前授業・研究授業(5)	学習発表会時間割開始	水曜時程・5時間授業	午前授業	就学時検診 土曜時程・午前授業	クラブ活動(卒業アルバム写真) 社会科見学(4) 安全指導 2年生5時間始	文化の日	150周年記念式典	読書月間始

※今月のスクールカウンセラー来校日は10日、17日、24日です。相談のある方は、来校日に直接又は、担任を通して申し込むか、来校日のAM9:00~9:20に463-5902(相談室直通)または学校に連絡してください。

赤城移動教室

六年担任 石井 康介

九月二十七日(水)～二十九日(金)に、二泊三日の移動教室に行ってきました。大自然に囲まれた、赤城青少年交流の家に宿泊し、学校ではなかなか体験できない貴重な体験をすることができました。

子供たちは「集団生活」「自立」「礼儀」という三つの目標を立て、どの活動でどの力を伸ばしているのか考えながら活動しました。野外炊事や山登りでは、班のみんなで声をかけ合いながら、協力や役割分担をしていました。宿舎では、先を見通し、先生に言われる前に活動しよう努力していました。各活動の最後には、お世話になった方々へ「ありがとうございます！」と大きな声で気持ちを伝えていました。

帰って来るなり、この三日間で学んだことを、これからの生活に生かしたいと話す子がたくさんいました。移動教室でさらに成長した子供たち、これからの活躍にも期待しています。

遠足に行きました

五年担任 室岡 宗一朗

十月五日(木)に埼玉県日高市にある、物見山・高指山・日和田山へ遠足に行きました。三つの山を登るので行く前には、登れるかどうか不安そうにしている子もいましたが、当日が近づくにつれてわくわくする気持ちの方が高まっていたようでした。

今回の遠足では、「その場に応じた行動をとること」と「友達と協力すること」、「自然に親しむこと」を目標としました。行き帰りの電車内では、他の乗客のことを考えながら、マナーを守って乗車することができました。山道では、班の友達同士で声をかけ合ったり、手を取り合ったりしながら歩きました。頑張った山頂では、達成感に満ちた表情で綺麗な景色を眺めていました。

学校に到着したときには、少し疲れた様子でしたが、最後まで話をしっかりと聞き、高学年らしい立派な態度で終えることができました。

体力テストと運動キャンペーン

体力向上部 高橋 香帆

本校では、子供たち自身が自分の体力や運動能力に関心をもち、より健康な生活を送ることができるようになることをねらいとして、毎年「体力テスト」を行っています。保護者の方の中には過去に自分も受けたという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

体力テストは他人との勝負ではなく、自分の過去の記録との勝負だと考えています。自分の今までの記録を見て、少しでも伸びている部分を見てみると来年への目標につながると思います。

また、子どもたちの体力向上のため、運動キャンペーンも学期に二回行います。長なわ・短なわ・持久走などさまざまなキャンペーンを通して、日常的に運動に取り組み、楽しみながら体力を高めていける子供たちを育てていきたいと思っています。

三つのいいこと

学校司書 山口 和代

本を読むと、三つのいいことがあります。

一つ目は、「知らないことを知ることができる」ということです。本を読めば、想像の翼に乗って世界中を旅できるし、遠い昔の人たちと会うこともできます。たくさん不思議なものごとについて知ることできます。

二つ目は、「知らない気持ちを知ることができる」ということです。本の中の登場人物の気持ちを知ること、友達の気持ちを想像したり、思いやったりできるようになります。

三つめは、「知らない自分を知ることができる」ということです。本は、自分の新たな一面に気づかせてくれます。将来を決めるような運命の本に出会うこともあります。

一冊一冊の本が、知らない世界への扉です。読書月間に、たくさん扉が開くことを願っています。